| 授業科目名：<br>体育史 | 教員の免許状取得のための<br>の<br>必修科目（選択科目） | 単位数：<br>2単位 | 担当教員名：綿貫　慶徳<br>担当形態：単独 |
|---|---|---|---|
| 実務内容<br>（実務家教員の場合） | | | |
| 科　目 | 教科及び教科の指導法に関する科目<br>（中学校及び高等学校保健体育） | | |
| 施行規則に定める<br>科目区分又は事項等 | 教科に関する専門的事項「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。） | | |

「学位授与の方針」との関係

本科目は、「学位授与との方針」のうち、以下に該当する。

・問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。

・個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。

授業の到達目標及びテーマ

（１）近代社会を中心として、体育・スポーツの歴史的展開を学んでいく。

（２）日本の近代体育・スポーツに影響を及ぼしたヨーロッパにおける体育・スポーツ事情を理解する。

（３）学校体育における兵式体操導入のねらいを理解する。

授業の概要

古代から近代にかけてのヨーロッパにおける体育・スポーツの歴史的展開、および、それが日本の近代体育・スポーツに及ぼした影響を講義内容の柱に据えて、体育・スポーツの通史を概観していく。通史の理解を踏まえたうえで、戦前、戦中、戦後の各期における日本の体育・スポーツの特徴と相違に関する見識を深めていく。

授業計画

第１回：体育史の対象と研究領域

第２回：体育・スポーツの起源と発展

第３回：古代の娯楽とスポーツ

第４回：古典古代の競技と体操

第５回：中世のスポーツ・身体修練

第６回：近世の体育・スポーツ

第７回：近代体育の源流

第８回：近代体育の成立と展開（１）近代市民体育理論の形成

第９回：近代体育の成立と展開（２）国民体育の成立と展開

第１０回：近代スポーツの成立と展開

第１１回：戦前期における日本の体育・スポーツの特徴

第１２回：戦中期における日本の体育・スポーツの特徴

第１３回：戦後期における日本の体育・スポーツの特徴

第１４回：現代体育の源流

| |
|---|
| 第１５回：新しいスポーツ運動の展開<br>定期試験 |
| 教科書<br>岸野 雄三（編著）『体育史講義』大修館書店　１９８４年、<br>木村　吉次（編著）『体育・スポーツ史概論』＜改訂３版＞市村出版　２０１５年 |
| 参考文献<br>水野 忠文『体育史概論　－西洋・日本』杏林書店　１９８７年<br>木村 吉次『日本近代体育思想の形成』杏林書店　１９７５年<br>岸野 雄三『体育の文化史』不昧堂出版　１９５９年 |
| 学生に対する評価<br>レポート評価（５０％)、科目修得試験（５０％）の割合で総合して評価する。 |